

うきたむ

第52号
2019.1.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585

FAX 0238 - 52 - 4665

URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲からむしで布をつくろう

体験のちから

うきたむ風土記の丘考古資料館

職員 伊藤純子

当館では毎年考古学に関わる様々なイベントを開催しております。

石器や勾玉、弓矢などを作っていたり体験はすっかり定着しましたが、そのほかにも縄文時代の遺跡から発掘された「手形・足形付き土製品」をモチーフにした「赤ちゃんの手形をつくろう」には毎年大勢の赤ちゃんのご家族の方にご参加いただいています。また、小学生の皆さんに夏休みの一日、縄文時代を体験していただく「スクールオブジョウモン」は一回に体験していただける人数は多くはありませんが、心に残る一日になるように、その後別の機会に訪れてくれる小さなリーダーたちが増えています。

大人の方には、古代の技術の高さを感じていただく「ガラス玉をつくろう」や、古代の素材を身近に感じていただく「古代風プレスレットをつくろう」、「からむしで布をつくろう」なども好評で、もう少し掘り下げて体験を楽しみたい方には、からむしの繊維を採るところから布（コースター）をつくるまでを二回講座で体験していただく「大人の自由研究」も行っています。

実際の体験には、「力」^{ちから}があります。どうしても難しいイメージを持たれがちな考古資料館ですが、「見る」、「聞く」に、「体験する」をあわせていただくことで、各時代をたくましく生き抜いてきた人々をより身近に感じていただけるのではないかと思います。

今年はずいぶん、当館に足をお運びいただき様々な体験はいかがでしたでしょうか。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

企画展記念講演会

木は語るく古代から近世の木簡と木製品く

「出土文字資料と古代出羽国」

平成30年11月18日(日)

今年度の企画展講演会は十川陽一先生の「出土文字資料と古代出羽国―山形県域を中心に―」の演題で開催されました。

最初は「古代における文字と木簡」と題し、律令国家の支配と文字、出羽国の成り立ちと文字についてのお話でした。国内ではこれまでに50万点以上の木簡が見つかっており、それを見ると民衆



▲企画展記念講演会 十川陽一氏

支配や土地管理・徴税のための戸籍や計帳、都鄙(都と地方)間の意思疎通のための官符など多様であるということです。

また、出羽国関係の出土文字資料を見ると平城宮から「裳上郡」、神亀五年の勤務評定である出羽国郡司考状帳が出土しており、県内の遺跡では酒田市の生石2遺跡の年齢を記した漆紙文書、鶴岡市山田遺跡の「駅子」と

記した木簡、米沢市大浦B遺跡の漆紙文書の具注暦等があり、出羽国ではこれまで2百点余り(そのうち古代は50点ほど)が出土しているがこの数は陸奥国の半分ほどということでした。

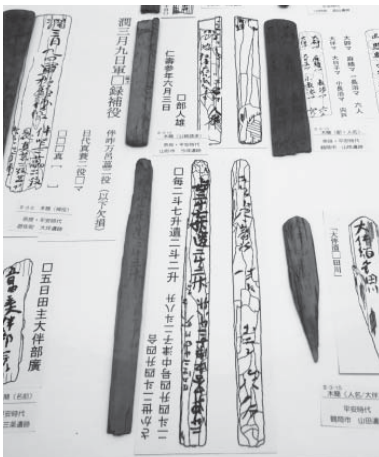
次に「仏教と文字」と

題して出羽国内での蝦夷や俘囚への仏教の拡大が日本書紀や日本三大実録で知ることができると、そして「四天王法会」が国家財源を用いて執行われていたことが出土した木簡や墨書土器から知ることができるとのことでした。

「出土文字資料からみた古代の山形県域」では、山形市今塚遺跡の仁寿三年の紀年銘がある木簡は上意下達の文書様式をもつ郡符木簡であり、墨書土器から郡司子弟など在地の有力者層であった書生の存在が

想定でき、米沢市古志田東遺跡の木簡や河北町熊野台遺跡の須恵器に刻書された文字から最上・置賜地域では労働力を差配

する有力者がいたことが想定できるとのことでした。また、元慶の乱が勃発する前の貞観六年頃から現在の秋田県域の蝦夷を懐柔させるための饗応が盛んに行われていたということが続日本紀や延喜式、秋田城出土の木簡から読み取ることができるとのことでした。このための財源は安定した生産地帯であった南出羽(山形県域)諸郡と一部秋田県域の郡が担ったということでした。



▲展示木簡(一部)

第XIII期 うきたむ学講座

今年も様々な視点で置賜の歴史を見て行きます

【第1回】1月13日(日)

「米沢藩の軍制改革―西洋流砲術導入をめぐる諸問題について―」 布施賢治氏

「東北から見た戊辰戦争」 渡部幸雄氏

【第2回】2月10日(日)

「高畠町周辺の 鉾山と鉾物」 五十公野裕也氏

【第3回】3月3日(日)

「やまがたの無形文化財 深山和紙く守り伝えるための地域づくり」 高橋信博氏

「白鷹紬く生業(なりわい)について」 守谷英一氏

考古資料館にて

各回13時から

(詳細はお問い合わせください)

今回は「古代から近世の木簡と木製品」と題して、全三回開講し、企画展をより深く理解する機会となりました。以下に内容をご紹介します。

「古代の木製品―建築部材・祈り・文字―」

佐藤庄一 氏

(山形考古学会会長)



出羽国の成立から、堂の前遺跡の建築部材、俵田遺跡の祭祀

跡、木簡と文字資料など、今回の展示資料に絡めて古代の県内についてお話をいただきました。

「大在家遺跡の木製品と文字資料」

井田秀和 氏



木簡や木製品が多数出土している、高

島町内の大在家遺跡、町尻遺跡について、遺跡の概要や出土遺物のお話をいただきました。木簡の一部は飛鳥時代のもので考えられます。

「上高田遺跡の木製品と文字資料」

齋藤健 氏

(公益財団法人



山形県埋蔵文化財センター) 多くの木簡や木製品が出土している遊

佐町上高田遺跡について、遺跡の概要と企画展で展示したものを中心に出土遺物のご解説をいただきました。

また関連する遺物として、同遺跡から出土した墨書土器や人面墨書土器などについてもお話をいただきました。

「中近世の木製品と文字資料」

高桑登 氏

(公益財団法人



山形県埋蔵文化財センター) 今回多数展示させていた

だいた小田島城跡、亀ヶ崎城跡に米沢城跡を加え、出土遺物を中心に中近世の木製品と文字資料について、お話を頂きました。

「馳上遺跡の木製品と文字資料」

渡辺和行 氏

(公益財団法人



福島県文化振興財団) 農具や馬具などの木製品や木簡などが

出土している米沢市馳上遺跡について、遺跡の概要と出土遺物について、木製品以外の遺物も含め、詳しくお話をいた

きました。

「古志田東遺跡の木製品と文字資料」

手塚孝 氏

(米沢市教育委員会)



豪族の屋敷跡と考えられる米沢市古志田遺跡からは、多くの木簡や木製品が出土しています。今回は遺跡概要お

よび出土木製品について木簡の内容も含めてお話をいただきました。



▲考古学セミナー 佐藤庄一 氏

絶賛頒布中!

「木は語る」

「古代から近世の木簡と木製品」



今年度開催の、第二十六回企画展「木は語る」古代から近世の木簡と木製品」の展示図録です。

木製品三部作の最終回は、木簡・木製品を通して、古代から近世の社会や暮らし、木との関わりを探ります。

展示遺物を全点収録。詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

- 第一章 建物と井戸
- 第二章 生活と道具
- 第三章 文字と祈り
- 第四章 美と装い

遺跡紹介

頒布価格 1,500 円

置賜史跡めぐり (46)

笹野観音堂

米沢市 ● 古代

笹野観音堂は米沢市笹野に位置する真言宗の寺院です。

昔、坂上田村麻呂が国家鎮護を願い観音菩薩像を安置し、弘仁元年(810)7月に現在の観音堂が落成、名僧である徳一上人によって入仏供養が行われたという、とても古い由緒を伝えています。伊達氏や上杉氏の歴代領主の信仰も厚く、伊達政宗が野始め(正月3日に狩りを行う伊達氏の年中行事)の途中に訪れたり、上杉氏も藩主の病気の時や天候不順の際には祈願を命じています。安永8年(1779)には上杉鷹山(治憲)が観音堂を再建しますが、天保4年(1833)に火災に遭い、観音堂は秘仏を除いて焼失してしまいます。現在のお堂は天保14年(1843)に上杉

建立の「観音の 葦みやりつ 花の雲」の句碑も見ることが出来ます。

紫陽花の名所として別名「あじさい寺」と呼ばれており、7月頃に見ごろをむかえます。また、平成29年には「未来に伝える山形の宝」に選定されたほか、置賜三十三観音霊場の19番札所にもなっています。置賜三十三観音は2019年5月1日〜10月31日まで御開帳予定になっていますので、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

風」と天保14年(1843)



▲ 笹野観音堂

我が館の展示品 (40)

岩板

縄文時代 ● 村山市 宮の前遺跡

縄文時代のくらしは、現在よりも自然とのかかわりが密接でした。

当時の人々は、すべての生物に精霊が宿るといふ「アニミズム」の思想をもっていたと考えられています。土偶や石棒、岩板などの出土品には、豊かな生産への祈りが込められているでしょう。

現代社会で失われつつある、自然を尊ぶという人間としての本質を、縄文の人々の遺物によって垣間見ることが出来ます。



▲ 岩板